

第1回 鳴門市地域福祉講演会

平成28年8月6日13時30分～15時45分

於 うずしお会館 第1会議室

講師 公益財団法人 さわか福祉財団 戦略アドバイザー

土屋幸己認定社会福祉士

②地域福祉計画、富士宮市の導入期

今日は、これから鳴門市さんは地域福祉計画という地域福祉に関する総合的な計画を今年1年かけて作っていく事になるんですけども、その地域福祉計画、富士宮市は平成17年、今から11年くらい前に住民とともにこの計画作りに取り組んできました。11年前に住民のみなさん、私はその時社会福祉協議会の職員でしたが、地区が14地域あって座談会で回りました。「これから地域福祉はみなさんのご協力が無いと上手く行かないので、ぜひ、協力してください。」とお願いに回りました。当然、社会福祉協議会と行政の職員と一緒に回りました。座談会の席では、「そんなの行政がやるべきことじゃないか」とか「介護保険を安くあげるために俺たちにいろいろさせるのか」という事で住民のみなさんからいろいろお叱りを受けて回りました。

だけれども、当時何が言われていたかというのと、2015年問題というのが囁かれました。2015年もう過ぎちゃいましたね。何が問題かというのと、2015年というのはちょうど団塊の世代の方たちの一番上のほうの方たちが65歳を迎え始める年なんです。そこから団塊の世代は人口が多いですから高齢化率がどんどん上がって行って、高齢化の問題が出てくるよ。だから2005年、10年前から2015年になる前に地域でしっかりと尊厳のある生活が継続できるような地域福祉を推進していこうという事で、もう10年ほど前から、後でお話します地域包括ケアシステムという尊厳ある地域生活が続けられるような仕組みを作ろうと言われてたんです。

そして、あっという間に10年経ってしまいました。もう2016年ですよ。今、何が言われているかと言うと、2025年問題、10年後には団塊の世代の方たちがすべて75歳を迎えます。75歳以上になります。75歳いい言葉じゃないですが、後期高齢者と呼ばれていて、75歳を過ぎてくると、身体的な機能が著しく低下をしてきたり、認知症になる率が高くなったりします。で、そうなる前に認知症になっても、要介護状態になっても、尊厳のある地域生活ができるようにしてこうと。で、そういう仕組みを作ろうというのが地域包括ケアシステムということなんです。

例えば、後でお話しますが、今7人1人ぐらい、65歳以上の7人に1人ぐらいが認

知症という診断を受けています。で、5人に1人ぐらいが1人暮らしをしてるわけですよ。今ですと10人に1人ぐらいですかね。そうすると、認知症の1人暮らしの方ってみなさんの地域にもいらっしゃいますよね、地域に。

1人暮らしで認知症になると、記憶障害がでてくるので、ごみの日を間違えたりします。月曜日と木曜日をごみの日なんだけど、水曜日くらいにごみを捨てに行っちゃいます。そうすると、地域のごみ当番の人から「こんな日にごみ捨ててもらっちゃ困るよ。」と怒られるわけですよ。そうするとごみを出すのが怖くなってしまって、ごみを出せなくなります。気が付くと家の中にごみが溢れてきます。近所の人「不衛生だ」「火事になったらどうするんだ」そんな認知症の1人暮らしの人を地域に置いとくことはできないから、施設に入れてくれ。

これって、地域からの排除ですよ。「おい、この人邪魔な人だから施設に入れてくれ」って、「心配だから入れてくれ」って。そうすると、尊厳のある地域生活が続けられませんが、ですから、そういうような状況になってもちょっとゴミだしのお手伝いしてあげようとか、迷子になりそうだったら、みんなで「あの人ちょっと心配だから見守ってあげよう」「声かけてあげよう。」こういうような地域での支え合いとか助け合いとかの仕組みを作っていかなないと、尊厳のある地域生活の継続ができなくなってきます。

そこで、介護保険制度だけではとてもそういう人の生活が支援できないので、住民のみなさん、地域の力、といったものをお借りしながら、包括的に、包括的っていうのは色々な介護保険のサービスとか助け合いとか、ね、地域の見守りとか、そういうものをしっかりとセットして、地域で尊厳のある生活を創り上げていこうというのが地域包括ケアシステムの目的ということになるんですね。だからここ10年間に、そういう施策を推進していかないと、2015年で終わるわけじゃないです。そこから2050年ぐらいまでずっと高齢化率が伸びていきますから、そこで対応できるような仕組みを作ろう。それが、地域で最後まで住み続けるために必要なことなんだ。そのためには、行政だけではとてもできない、介護保険だけでもとてもできない。そこで、住民のみなさん、地域の皆さんの協力、所謂、地域福祉の推進が、重要なんだということになるんです。

今日は、そんなことを前半はちょっと理屈になりますが、お話をさせていただいて、後半は、富士宮市で実際に住民の皆さん、または地域の事業所の皆さんがどういう取り組みをしてきたか、これについて説明をしていきたいと思っています。